

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172200210
法人名	株式会社 共寿
事業所名	グループホーム 海津 「福寿苑」
訪問調査日	平成 19 年 4 月 24日
評価確定日	平成 19 年 5 月 30日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年5月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2172200210
法人名	株式会社 共寿
事業所名	グループホーム 海津 「福寿苑」
所在地	海津市海津町福江627 (電話) 0584-54-0291

評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成19年4月24日	評価確定日	平成19年5月30日

【情報提供票より】(19年 3月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	19 人	常勤	8 人, 非常勤	11 人, 常勤換算 10 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	37,500 円	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		550 円	

(4) 利用者の概要(3月 31日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐久間医院・海津医師会病院・高須歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯にあるホームで、広い庭には足湯があり地域の方にも開放している。廊下から自由に出入りできる中庭と吹抜けの居間があり開放的な雰囲気の中、利用者は自然の光と外気に触れながらゆったりと暮らしている。花見や紅葉狩りなど季節感を味わいながら家族とともに過ごす時間を大切にしている。重度の利用者も日々の外出や、家族の支援を得ながらの遠出により、確実に効果が現れる等利用者、家族、職員の生きがいとケアの展開が図られている。すべての面で運営者、管理者、職員は、利用者本位を十分認識し利用者の自己決定をふれあい・寄りそうケアを通して実践している。一方、良好なチームケアの体制があり、お互いの仕事を認め合いながら、求められる地域密着型のグループホームづくりに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善項目は、職員会議で検討し改善へ向けての取り組みがある。アセスメントにはセンター方式を取り入れ過去の生活歴をより詳細に収集し利用者本位の具体的な介護計画の作成に成果を上げている。改善計画シートにその状況と結果が記録されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価をすることで、日々のケアや自分自身の振り返りが出来るとらえて積極的に取り組んでいる。外部評価をうけることで、忘れかけていることや新たな視点からの気付きを知ることが出来るなど評価の意義を十分理解している。評価の結果をプラス思考で捉えながら改善することし、サービスの質の向上の確保に活かしていこうとする姿勢がある。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に一回の割合で3月に第一回目が開催されホームの状況説明や行事等話し合われた。家族からの意見は、職員会議の議題とし共通認識に努めている。運営者、管理者は、今後ホームの行事の日に開催日を合わせる等幅広い立場の方からの意見をとりいれる予定である。今後もホームの理解と支援を得るための機会になるよう取り組もうとしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的に発行されるホーム便りで行事の報告や案内を知らせている。家族の訪問時には、意見や苦情が言いやすい雰囲気づくりに心がけながら、利用者の日々の暮らしぶりの報告もしている。運営推進会議で家族からの意見が出され職員会議で話し合いその後のケアにつなげている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しているが利用者の状態から地域活動の参加が少なく、夏祭りの参加と公共施設の利用、散歩時の挨拶くらいで地元の人々と交流する機会が少ない。地域の緊急時の協力体制はできている。今後は地域の一員として自治会活動に積極的に参加し、地域の中学生の体験学習を受け入れるなど地域交流を深めていきたいと考えている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民との関わりや意義の重要性を理解している。昨年度に引き続き地域の一員としての生活を今年度の課題として取り組んでいる。しかし理念を具体的に見直していない部分が見られる。	○	運営基準等関係法令の改正に伴う、住み慣れた地域の中で暮らし続ける地域密着型サービスの役割を今後も目指していくことが重要である。事業所の独自の理念を具体的に見直し明示することを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行なうケアカンファレンスや会議において、理念の確認と意識づけをし共有化を図っている。理念を職員自ら「心得」とし重要性を十分認識しながら各々のモチベーションを高め、日々のケアに具体化して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入はあるが現在利用者の状態から地域活動の参加の機会が少ないため、地域の行事に参加して交流を深める機会を考えている。	○	地域住民の一員として人々の関わりや活動に積極的に参加し、交流を持つ機会を増やし、地域から必要とされることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価をすることを、職員の意識の統一化と日々のチームケアの振り返りや見直しの機会として前向きにとらえながら取り組んでいる。また外部評価の改善事項や課題は職員会議で検討し改善計画が立てられている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し始めた。3月は日程の都合で地域住民の参加がなかった。運営者、管理者は、会議のあり方や内容等これからどうすべきか今後の課題と捉えている。運営推進会議で出された事項はサービスの向上にも活かされている。	○	運営推進会議には利用者や家族を始め、地域住民や幅広い立場の人が積極的に参加してもらえるよう働きかけ、多くの意見をひきだし地域の理解と支援を得ながらサービスの向上に活用されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護福祉課、社会福祉協議会の窓口担当者との繋がりはあるが、サービスの質の向上に取り組むような課題解決や相談などの協働関係や連携には至っていない。	○	従来の行政職員の繋がりを更に深め運営推進会議等も十分活用しながら、地域における重要なサービスの拠点として積極的な連携の取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の行事への協力が得られている。暮らしぶりは家族の訪問時に報告したり定期的に便りと写真を送っている。健康状態の変化はその都度電話連絡をしている。	○	便りの発行がない月も利用者の暮らしぶりや様子など月1回の請求書とともにお知らせするなど、さらなる個々の家族とのきめ細やかなやりとりが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時などで意見を言ってもらえるような雰囲気づくりに心がけ、出された意見は会議で話し合っている。また運営推進会議で家族の意見が出され検討されている。	○	家族同志の集まる機会や家族会なども検討し、さらに意見を吸い上げる場を作り、家族から得られた意見等をサービスに反映させていく仕組みづくりが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の異動もなく顔馴染の関係でケアを行ない家族と信頼関係を持っている。職員の離職も最小限であるため、ケアの統一が図られている。	○	今後も引続き離職や異動は最小限に抑え職員交代による利用者のダメージを防ぐ配慮が期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得希望者への理解を示しその機会を確保し職員個々の段階に応じた育成をしている。勉強会は研修会の報告や管理者からのケア提供時の気付きなどを中心に毎月行なっている。	○	勤務に支障を来さないよう研修機会を確保するための計画を立て、職員が学習会や研修会に積極的に参加出来るような取り組みが期待される。また、内部研修の工夫をはかり、自主研修や勉強会などを通して資質の向上を図るとともに、働く意欲にもつなげられることを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市内のグループホームのケアマネジャーの会議に参加し意見交換や交流する機会を持っている。	○	他グループホーム職員と交流する機会を持ち、互いに勉強会や意見交換を通して悩みの解消をはかったり、緊急時の連携体制の強化やサービスの質の向上に繋げることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前には本人、家族が何回も訪問し見学する等、グループホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。入院、他施設で入所されている方へは、管理者が出向いて様子や希望など伺っている。また運営者、管理者は、体験入所の必要性も検討している。</p>	○	<p>今後も本人の安心と納得を得るための時間をかけた支援が期待される。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の思いに共感したり関心を寄せながら一緒に過ごす時間を大切にしている。利用者の感謝の言葉やいたわりの言葉から学ぶことが沢山あることを日々大切にしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で声をかけや行動、表現から把握し意志疎通が困難な方には、ケアマネジメントセンター方式によるアセスメントから本人の思いや暮らし方の情報を得ている。また利用者本位と自己決定を重要視し、生活歴と現状を把握した上で、思い思いに過ごす時間を工夫し提供している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の担当職員が全体会議でスタッフの気付きや意見を十分取り入れ介護計画に反映している。また、本人や家族の希望や意見を取り入れる努力をし介護計画が作成されている。</p>	○	<p>十分にアセスメントの取り組みは見られるが、さらに本人をよく知る関係者などの意見やアイデアを反映し、利用者本位の介護計画の作成に取り組まれることを期待する。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しと状態の変化に伴う見直しは行っているが、介護計画にそったサービス提供の記録がないため介護計画の効果、評価と現状に即しているかの判断がつきにくい。</p>	○	<p>日々の介護記録の記述の工夫の検討を期待する。また、現状に即した介護計画を期間にとらわれず新鮮な目で観察と洞察をし、月単位でモニタリングをする事で、更に質の高いサービスの提供に取り組まれることを期待する。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて医療機関の受診や送迎の支援を行なっている。また運営者は、今後行政や地域住民から要請があればホームでできる範囲でのサービスを検討する意向を持っている。	○	今後、近隣の高齢者がショートステイやデイサービスを馴染みの環境で利用できるようにグループホームの多機能性が活かされることを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診を2週間に1回受けている人、受診する人等それぞれ本人や家族の希望に応じた医療機関を利用し納得と安心が得られる対応ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者が看護師であることから重度化や終末期に向けての取り組みが積極的である。継続的な医療を行なわない終末期の対応には、かかりつけ医の協力を得ながら本人や家族に説明し書面上でも意志確認をしている。また対応マニュアルを作成し職員は、日々の申し送りやミーティングなどで情報の共有化ができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者、管理者、職員は、全体会議の折に利用者の尊厳や権利を守る意識を確認し声かけや関わり方の振り返りをしプライバシーの確保と秘密保持の徹底を確認し合っている。特に管理者は言葉づかいや行動に関して気配りし周知していることが、ホーム全体の雰囲気から伝わっている。	○	今後は施設内だけでなく、ボランティアの方への個人情報に関する研修等行い協力の要請が望まれる。また、日々の介助の場面でも馴れ合いにならないように振り返り、常に細やかな気配りの重要性について話し合われることを期待する。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中のスケジュールがなく朝寝坊する人、夜更かしする人、趣味を楽しむ人、独歩を楽しむ人など利用者一人ひとりのライフスタイルがある。常に職員は利用者のペース、体調に合わせたケアを重要視し、穏やかに過ごせるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の話しや昔話などしながら利用者と共に楽しみながら、一人ひとりのペースに合わせ見守りながら食事をしている。準備や片付けは、一部ではあるが手伝っている人もある。	○	現在は準備や片付けなど一部しかできないということだが、昔とった杵柄、もっと掘り起しが必要と思われる。意志や気持ちを引き出す声かけや場面づくりの工夫等取り組みが大いに期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	買い出し日と外出日以外の5日間は、個別対応で希望する時間に毎日入浴できる。個浴であるため、重度の車椅子の人と夜勤帯で入浴希望の方がいる場合はシャワー浴で対応している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の花づくりする人、洗濯をする人、食事のテーブル拭き、食事の準備をする人等、出来る人が少ないがアプローチシートを活用しながら無気力になった原因を探り無理のないような支援を検討している。	○	一人ひとりにあった役割や楽しみごとを本人や家族等のふれあいの中から見つけ、日々の暮らしに楽しみや張り合いが持てるよう全員で働きかけていくことが望まれる。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週木曜日は外出日とし、重度の人でも車椅子の人でも利用者本位で家族の協力を得ながら状態に合わせた支援をしている。また天気の良い日はホームの外や近所を散歩している。買い物は病院の帰りにコンビニへ寄るなど気分転換が出来るよう支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は、利用者の立場で考え、閉鎖的にならないよう利用者の状態に合わせて、鍵を掛けないケアにこころがけている。玄関の自動ドアも自由に入出入りすることが出来る。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て利用者と避難訓練を行っており災害用の備蓄もしている。連絡方法や避難経路等会議で確認したり、夜勤者は日誌から介護度や搬送区分など把握して勤務している。近くの医師会病院や介護施設などとの連携は取れているが、地域住民の協力や警察との連携体制は今一歩である。	○	消火器など近くの住民の協力は得られているものの、運営推進会議など利用し地域住民、警察等の協力や連携体制を早急に築いていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好一覧表を参考に利用者の好みを献立に採り入れながら野菜、汁物をつけ栄養バランスに配慮している。利用者一人ひとり毎食の摂取量と1日の水分量を記録し栄養状態の把握をしている。また健康診断による栄養状態の管理にも努めている。摂取した献立を管理栄養士に指導を受けた実績もある。	○	定期的に栄養の専門的な観点からチェックしてもらえるよう地域の栄養士や保健師等に協力を得られることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ガラス越しの中庭を挟んで左右に天井の高い居間があり明るく開放感がある。トイレが数カ所あるが気になる臭いもなく、洗面台に置かれた手作りの飾り物、玄関先の庭や中庭に咲く花、利用者が日めくりなど季節感や生活感を採り入れながら居心地よく過ごせる配慮や工夫がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり切り株で作った表札や玄関をイメージした瓦のひさし、和風の格子など工夫がみられ利用者にとってはまさに昔ながらのなじみの家になっている。しかし、使い慣れた生活用品などの持ち込みに関しては、家族へ働きかけはしているが、生活の継続性を感じることができる居室作りまでにいたっていない部分もみられる。	○	利用者の好みや馴染みの物を活かしてその人らしく過ごせるような居室づくりを、本人や家族と相談しながら取り組まれることを期待する。また居室のドアの小窓から部屋の中が見え易い構造であるため、プライバシーの面でも工夫が望まれる。